



地域と医療のコラボレーション

第6号

2006 / APRIL

発行 / 医療法人社団協友会 東大宮総合病院

編集 / 広報委員会

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18

TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614

<http://www.higashiomiya.or.jp/>

ハーモニー

Harmony ♪

特集

NST稼動施設認定

NST。この言葉をご存知の方はまだまだ少ないと思いますが、医療関係者の中ではかなり周知されるようになりました。

NSTとは Nutrition Support Team: 栄養サポートチームのことです。

現在、全国の病院で入院中の患者さまの低栄養が問題視されるようになりました。まさかと思われるかも知れませんが、実に入院患者さまの約40%が栄養不良(低栄養)というデータがでています。低栄養はさまざまな障害を引き起こします。そこで当院でも低栄養を救うべくNST(栄養サポートチーム)が立ち上がりました。

栄養改善をする事により回復を高め、疾病治療、感染予防、褥瘡予防、早期離床、在院日数の短縮などの効果が期待できます。

当院のNSTメンバーは、坂本院長をはじめ、内科医師、口腔外科医師、各病棟看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士といった院内の多職種から構成され、チームに参加しています。

NSTの役割

- ① 栄養管理が必要か否かの判定 (栄養アセスメントの施行)
- ② 適切な栄養管理がなされているかどうかのチェック
- ③ もっともふさわしい栄養管理の提言 (適切な栄養ルートの選択)
- ④ 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
- ⑤ 栄養管理上の疑問点(コンサルテーション)に答える
- ⑥ 新しい知識・技術の紹介、啓発



NSTメンバー
栄養科 係長
山本 純子



NST活動に対して昨年の11月、日本静脈経腸栄養学会より「NST稼動認定施設」となりました。この認定は埼玉県内でもまだ13病院しかありません。

当院では、入院患者さま全員の栄養アセスメントを実施しています。具体的には入院時から低栄養患者さまのスクリーニング(抽出)を行ったり、全入院患者さまのアルブミン値(栄養状態の指標)の評価をするなど、栄養改善へ向けて取り組んでいます。今後、「経口で食事が摂れるようになった。」「褥瘡が良くなった。」「体重が増えてきた。」などの声が院内のあちらこちらで聞かれるようなNST活動を目指し、低栄養の改善へ向けて研鑽していきたいと思えます。



【NSTメンバー】

診療科だより

眼

科

緑内障は放置すれば失明に到る病気です。そのため、早期の発見が重要です。



眼科医長
みなみ さきこ
南 早紀子 医師

緑内障とは・・・

緑内障は「目の成人病」とよばれ、40歳以上の約17人に1人に発症するとされており、また加齢とともに起こりやすくなる疾患です。

緑内障は、ものを見る神経（視神経）がおかされ、ものが見える範囲（視野）が狭くなっていく病気であり、この原因には眼球内の圧力（眼圧）の上昇が考えられます。

緑内障の種類

慢性の緑内障は自覚症状がほとんどありません。視神経の障害がゆっくりと起こり、視野も少しずつ狭くなっていきます。そのため知らないうちに病気が進行していることも多くあります。

急性の緑内障では急激に眼圧が上昇し目の痛みや頭痛、吐き気など激しい症状を起こします。時間が経つほど治りにくくなるので、このような急性緑内障の発作が起きた場合はすぐに治療を行い、眼圧を下げる必要があります。

視野障害の進行

実際には両目でカバーしたり、目を動かしたりするために気づかない事が多いのです

初期



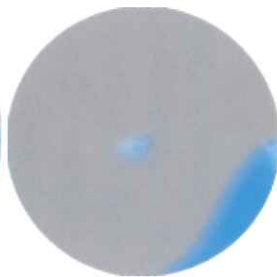
目の中心をややはずれたところに暗点（見えない点）ができます。自分自身で異常に気づくことはありません。

中期



暗点が拡大し、視野の欠損（見えない範囲）が広がり始めます。しかし、この段階でも片方の目によって補われるため異常に気づかないことが多いようです。

末期



視野（見える範囲）はさらに狭くなり視力も悪くなって、日常生活にも支障を来たすようになります。さらに放置すると失明に至ります。

緑内障の検査

緑内障の検査として、眼圧検査、眼底検査および視野検査を定期的に行います。

緑内障は家族内発生がみられるため、ご家族（血縁者）に緑内障の方がいらっしゃる場合には、検査を受けることをおすすめします。

緑内障によって、一度失われた視野は回復しないため、早期の発見が非常に重要となります。

緑内障の治療

緑内障の治療は病気の進行をくい止めるため、眼圧を低くコントロールすることが最も有効とされています。治療法としては薬物療法が一般的で主に点眼薬を用いますが、内服薬を使用することもあります。薬で眼圧が十分下がらない場合、あるいは症状の進行に応じてレーザー治療や、手術治療が行われます。

大切な目を守るために

緑内障は、日本を含め諸外国においても、失明原因の上位に位置します。悪化する前にできるだけ早期に発見し、治療を開始することが大切です。

自分自身で目を守るという自覚を持ち、発見の機会となる健康診断などを積極的に利用しましょう。少なくとも年1回は、定期健診を受けましょう。



膝の体操

膝は下肢の中心に位置し、「要」^{かなめ}の役割があります。この膝に何らかの病気が発症すると私たちの日常生活はさまざまな制限を受けることとなります。

膝の病気で最も多い「変形性膝関節症」という病気は、女性に多く、加齢によるものといわれています。初期は歩くときや立ち座りのときに膝に痛みが生じます。進行すると痛くて歩けない、膝が曲がらなくて靴下が履けないといった制限を受けることとなります。

加齢により骨密度の減少、筋力の低下、さらには俊敏性や平衡機能も低下するといわれ、膝の中(骨など)からだけでなく、外(筋力・平衡機能など)からも病気になりやすい環境となります。

ここで膝の病気の予防体操を紹介します。

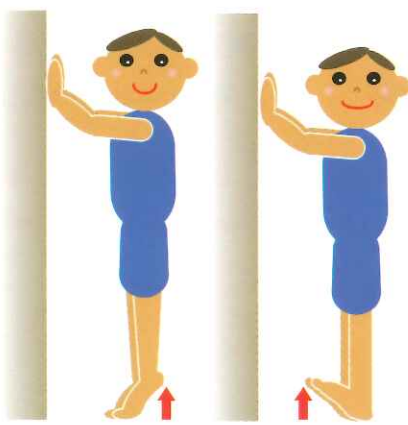


リハビリテーション科 係長
こやま ゆうじ
小山 裕司

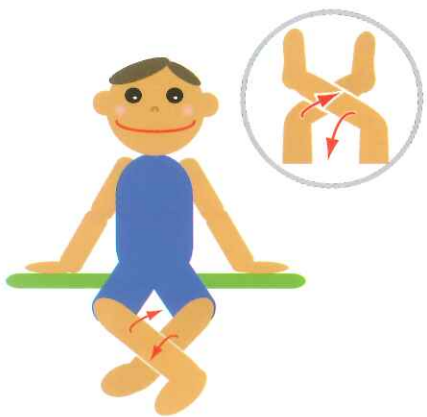
① 指先でグー、チョキ、パーのじゃんけん動作をします。10回繰り返しましょう。



② つま先立ち、かかと立ち、それぞれの姿勢を5秒間。10回繰り返しましょう。



③ 両足を絡ませ、下の足は伸ばす、上の足は曲げる力を入れ合います。足を入れ替えて10回繰り返しましょう。



痛みのない範囲で毎日行なうことが効果的です。現在痛みが強い方は無理をせず、整形外科医師へご相談ください。

平成十八年度

新入職員(42名)

4月より、42名の新入職員が仲間入り致しました。

看護師	21名
薬剤師	4名
理学療法士	6名
視能訓練士	2名
臨床工学技士	2名
臨床検査技士	1名
社会福祉士	2名
事務	4名

3月21日付けで入職し、1週間の本部研修を終え、当院でのオリエンテーションを経て各業務に当たっております。

まだまだ未熟な新入職員ですが、東大宮総合病院の一員となつて頑張りますので、よろしくお願い致します。

日々の努力を怠ることなく、社会人としての自覚を持って責任ある行動をとってまいります。



薬剤部：吉田友和



訪問介護

ホームヘルパーがご自宅まで訪問し、介護や家事援助などを行います。

どんなことをしてくれるの？

- 身体介護：食事の介助 / 入浴・更衣の介助 / 身体清潔 / 排泄の介助やおむつ交換 / 体位交換の介助 / 通院・外出の介助
- 家事援助：掃除や整理整頓 / 洗濯 / 買い物 / 布団干し / 食事調理・配膳・片付け など

お問い合わせは・・・

東大宮ヘルパーステーション

☎ 048-688-5025 (直通)

訪問看護

看護師がご自宅まで訪問し、療養上の世話（看護）や診療の補助などを行います。

どんなことをしてくれるの？

健康状態の観察と助言 / 清拭、洗髪や入浴の介助 / 褥瘡などの処置 / 療養環境の整備 / 留置カテーテル、各種医療機器の管理と指導 / 介護者の健康管理と精神的支援 / かかりつけ医の指示による処置・検査 など

- ◆ 理学療法士による、訪問リハビリも行っております。

お問い合わせは・・・

東大宮訪問看護ステーション

☎ 048-688-8388 (直通)

医療相談

病气やけがをすると、健康なときには考えなかった不安や心配事、患者さまやご家族の経済的・社会的な問題が起こってきます。そんなとき、当相談室をご利用ください。

たとえば・・・

- 療養のための施設入所を希望している
- 健康保険、年金、各種手当ての内容や手続きについて知りたい
- 退院後の生活、職場復帰が不安
- 病气や治療に対して不安や恐れがあり治療に専念できない
- 治療費や通院費が高額なので心配・・・など

お問い合わせは・・・

東大宮総合病院

☎ 048-684-7111 (代表)

医療相談室

お知らせ

入院費のお支払いのみクレジットカードでできるようになりました。(ただし、一括払いとなります)

●ご利用できるカード



詳しくは入退院受付窓口へ

当院の 数字アラカルト

平成17年度の病院事業としては9月に「医療機能評価」の取得をはじめ11の施設認定の承認、NST(栄養サポートチーム)、ICT(感染防止コントロールチーム)、RST(リスクマネジメントチーム)の院内ラウンドの充実、診療材料の適正化に強化をいたしました。病院全体の診療収入は前年比1.3%up、中でも在宅部門(訪問看護・訪問リハビリ)の伸びは、前年比13.8%upとご利用される患者様の需要が高かったことがわかりました。ハード面に関しましては、乳腺治療専門特化の為、5月に高精度マンモグラフィの設置、心エコーの予約緩和の為、12月には超音波断層撮影用の機器を1台増やしました。

人材育成・強化につきましても年間の学会発表、院外研修会への参加が、277件、延べ1,637名となりました。中でも看護部は156件の参加と個々のスキルアップにも力を入れております。

外来患者数	769.2人/日
入院患者数	266.0人/日
在院日数	16.4日
ベッド稼働率	84.0%
紹介率	20.0%
救急件数	218.8件/月
訪問看護	582.7件/月
訪問介護	750.3件/月
訪問リハビリ	201.2件/月

(平成17年度 平均)

編集後記

この春、当院では初めて臨床研修医を迎え入れ、また新入職員が加わり、平成18年度をスタートすることができました。後輩を育てることにより、今までの自分を振り返るきっかけとなります。新入職員と共に研鑽を積んでいき、より良い東大宮総合病院を創りあげていきたいと思っております。

医療法人社団協友会



東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18
TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614



JR宇都宮線「東大宮」駅下車
東口より徒歩3分